

科目名	発達障害治療学					授業の種類	講義	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2年	前期
【授業の目的・ねらい】 脳性まひの治療を中心に治療理論・評価・治療について学ぶ。行動障害・社会性など発達障害領域での問題も含みながら感覚統合理論・音楽療法等理論を取り入れた作業療法の治療を学ぶ。										
【実務者経験】 作業療法士として兵庫県立のじぎく療育センター、兵庫県立光風病院（現ひょうごこころの医療センター）に勤務。身体障害領域及び小児領域のリハビリテーションに従事。										
【授業全体の内容の概要】 運動障害から行動障害・社会性障害を含む疾患への作業療法としての対応を学ぶ・										
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 発達障害領域の疾患を理解し、それらをどのようにして作業療法として展開していくのか説明することができる。										
回数	講義内容								準備物(教材)	
1	発達障害とは								プリント	
2	発達障害に対する作業療法の理念と実際								パワーポイントプリント、	
3	非虐待児の作業療法の実際 正常発達復習 把握の発達								パワーポイント評価表	
4	発達評価法：エアハルト、津守式、S-M社会生活能力検査								評価表プリント	
5	S-M続き 新版S-M KIDS MAT 人物画知能テスト								評価表プリント	
6	VMI フロスティグ視知覚検査 TVPS								プリント	
7	視覚障害のOT 常同行動に対するOT 環境設定（スヌーズレンなど）								プリント	
8	盲重複障害とOT 環境設定のOT（パソコンが出来るようになるための工夫）								プリント	
9	ミラニーチャート、反射									
10	作業療法における各種治療方法の理解 1									
11	作業療法における各種治療方法の理解 2									
12	作業療法における各種治療方法の理解 3									
13	作業療法における各種治療方法の演習									
14	作業療法における各種治療方法のグループワーク									
15	1から14のまとめ									
定期筆記試験										
【使用教科書・教材・参考書】 ゴールドマスター発達障害治療学										
【準備学習・時間外学習】 小児科学の講義を振り返る。また、疾患と作業療法の結びつきをしっかりと理解するよう復習しておく。										
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。										